



株主・投資家の皆様へ

# 第101期 中間報告書

2020年4月1日～2020年9月30日



P1 株主・投資家の皆様へ

P3 連結業績ハイライト

P5 JULUX 50年のあゆみ

P7 企業情報



# 株主・投資家の皆様へ



## 独創力で、 “一步先行く提案”型企業へ

株主・投資家の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに、第101期第2四半期連結累計期間(2020年4月1日～2020年9月30日)における事業の概況と業績につきまして、ご報告申し上げます。

代表取締役社長 兼 C.E.O. **田中直人**

### ■第2四半期連結累計期間の概要

当期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大及び緊急事態宣言発令下において、景気は急速に悪化しました。宣言解除後、経済活動の再開が段階的に進められる中で、個人消費を中心に持ち直しの動きが見られるものの、感染再拡大の懸念や、米国大統領選を控えた米中対立の深刻化、世界経済の下振れリスクの中で、当の間、緩やかな回復に留まるものと考えられます。

このような状況下、当期間の当社グループの売上高は前年同期比8.9%減収の234億8百万円、営業利益は同26.9%減益の26億9百万円、経常利益は同22.2%減益の28億22百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同24.1%減益の19億24百万円と、いずれも前年を下回りました。

### ■業績予想の上方修正について

当期間は新型コロナウイルスの感染拡大に伴う世界規模での自動車やタイヤの生産調整を受けて、ラジアルタイヤの原料となる不溶性硫黄の販売が低調に推移し、プリント配線板向け水溶性防錆剤タフエースも車載基板用途等で前年を下回りました。また、建材事業も住宅着工や設備投資が低調で、前年同期比で4年ぶりの減収減益となりました。

一方、足元では経済活動に一定程度の回復の兆しが見え始めています。自動車やタイヤの生産活動の正常化により不溶性硫黄の販売が第1四半期を底に回復傾向にあることや、米国市場における塩素化イソシアヌル酸の販売が好調を持続していることなどから、2021年3月期の連結業績予想を上方修正いたしました。修正後の予想は、連結

## 四国化成グループ長期ビジョン

# 「Challenge 1000」

当社グループは、新たなステージへの飛躍を目指し、2030年を目標とする長期ビジョン「Challenge 1000」を策定いたしました。中期経営計画だけでは描き切れなかった長期的な視点から目指す姿を設定し、飛躍的な成長を実現していきます。

2030年に  
ありたい姿

## 独創力で、“一步先行く提案”型企業へ

独創的なアイデアで社会課題を解決し、世界の進歩をリードする

### 四方よし

#### 顧客

#### 一步先の価値を

ユニークで最先端の製品・サービスで、新たな価値を提供する

#### 従業員

#### 挑戦と成長を

多様な働き方と挑戦による成長実感で豊かな人生を応援する

#### 株主

#### 利益還元を

配当性向 30%  
総還元性向 50%

#### 社会

#### より良い明日を

社会課題の解決に貢献し、豊かな生活環境を実現する

売上高は前期比5.0%減収の490億円、営業利益は同13.4%減益の68億円、経常利益は同12.7%減益の70億円、親会社株主に帰属する当期純利益は同14.4%減益の48億円を見込んでいます。

## ■長期ビジョン「Challenge 1000」について

当社グループは新たなステージへの飛躍に向けて、2030年を目標年度とする10年間の長期ビジョン「Challenge 1000」を策定、達成すべき財務目標として、売上高1,000億円、営業利益150億円、ROE(自己資本利益率)10%以上を掲げ、グループ一丸となって取り組んでおります。

また、企業行動指針として「四方よし」、すなわち四つのステークホルダーへの貢献を掲げ、お客様には「一歩先の価値」を、従業員には「挑戦と成長」を、株主の皆様にはより一層の「利益還元」を、そして社会には「より良い明日」をお届けしてまいります。

さらに、国連で採択された持続可能な開発目標(SDGs)の趣旨に賛同し、その達成に貢献してまいります。当社の主要な事業の中にはすでにSDGsと深い関わりがあるものも多くありますが、レスポンシブル・ケアによる環境保全活動に加え、さらなる社会課題の解決のために各事業を通して貢献してまいります。

「Challenge 1000」が目指すものは、然るべき投資計画を伴う積極経営による高い成長と、社会における四国

化成グループの確固たる存在感です。この長期ビジョンのもと、様々な事業活動を通じた“一歩先行く提案”で企業理念「独創力」を体現し、いっそう輝きを増した企業集団へと変貌を遂げてまいり所存です。

## ■株主還元の基本方針について

企業行動指針「四方よし」の一つである、株主の皆様への還元につきましては、その基本方針として、2030年度に至る長期ビジョン「Challenge 1000」の期間中において「連結業績を基準として、配当性向30%、総還元性向50%」を目指します。

この基本方針に沿って、昨年11月には17億86百万円の自己株式を取得し、連結総還元性向は56.6%となりました。さらに、本年5月に16億5百万円の自己株式を取得、6月には発行済株式総数(消却前)の5.21%にあたる307万株を消却いたしました。

今期中間業績はコロナ禍を主因とする減収減益となりましたが、2020年度の中間配当金につきましては、株主還元基本方針や通期業績見込み、財務状況等に鑑み、4月27日公表の配当予想通り、1株につき12円とさせていただきます。

株主・投資家の皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2020年12月

## 財務目標 (2030年3月期・連結)

売上高

1,000億円

営業利益

150億円

ROE

10%以上

## SDGsへの貢献

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

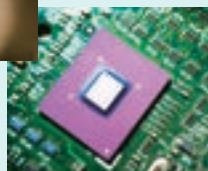
四国化成グループは、2015年9月に国連サミットで採択された2030年までに達成すべき17の目標である「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成を重要課題と認識しています。事業活動を通じSDGsの達成に向け貢献していきます。

## 徳島工場で2大プロジェクト進行中

現在、徳島工場では大型設備投資案件の2大プロジェクトが並行して進んでいます。ファインケミカルマルチプラントは、IoT時代の到来から今後需要拡大が見込まれる最先端半導体プロセス材料などの試作から量産まで対応できるマルチプラントで、低金属管理など、高度な品質管理が求められる新製品を中心に製造します。投資額は約25億円、来年7月の稼働開始を予定しています。また、殺菌消毒剤塩素化イソシアヌル酸の新プラントは、バラスト水処理装置向け薬剤「ネオクロール マリーン」など更なる需要拡大に対応していきます。投資額は約50億円、2022年7月の稼働開始を予定しています。



半導体ウェハー



ICチップ、封止材使用例

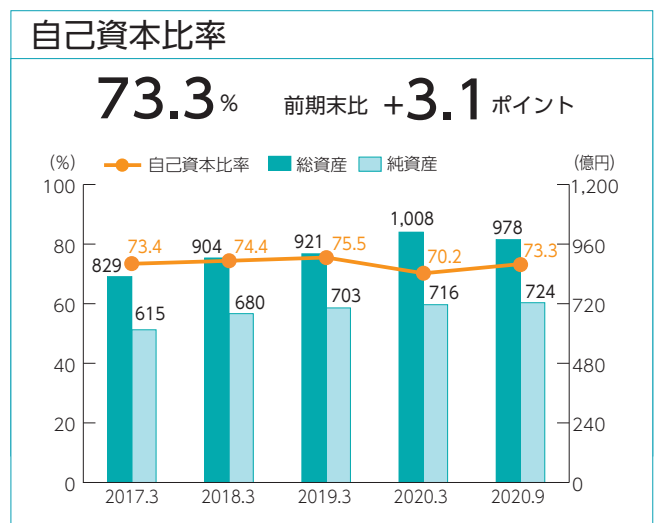
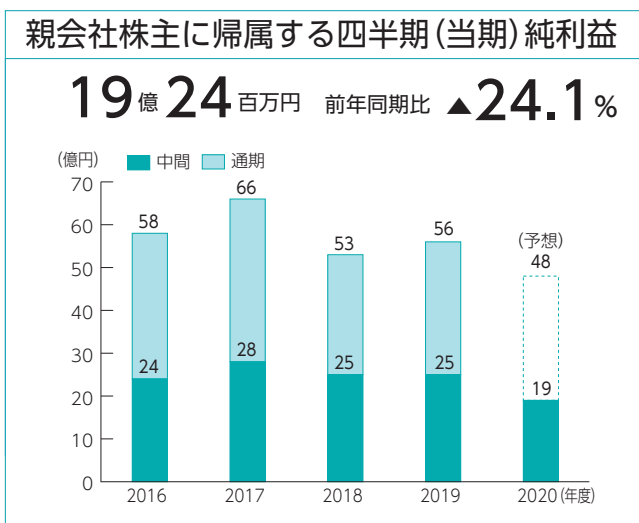
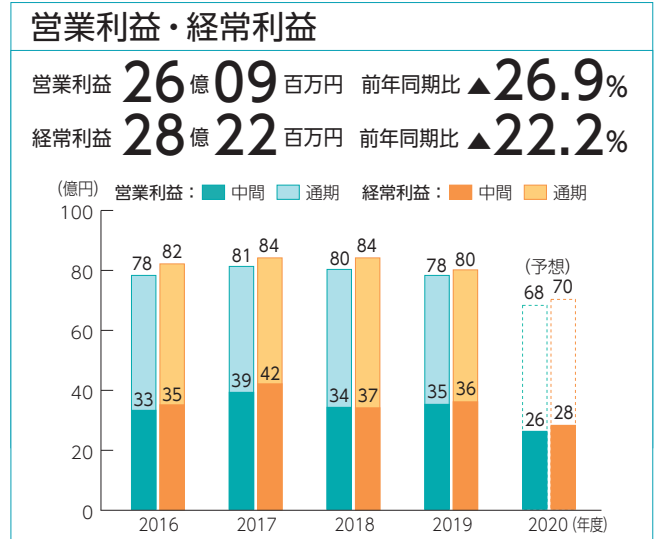
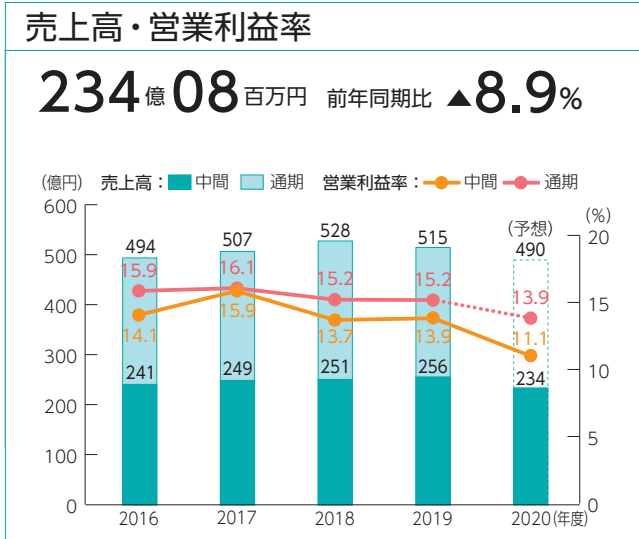


「ネオクロール マリーン」

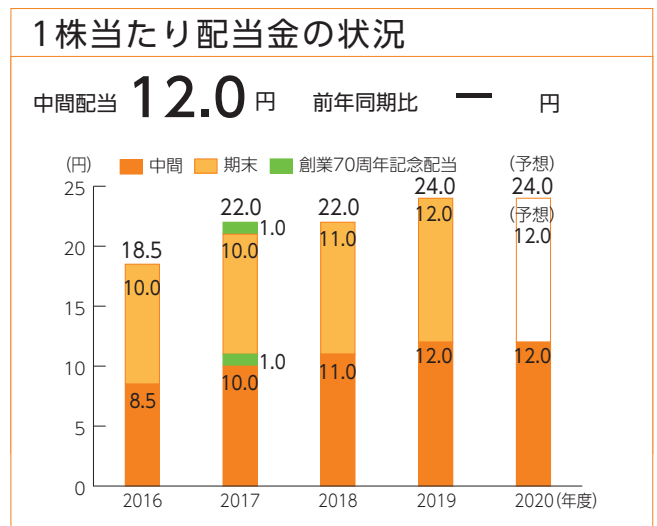
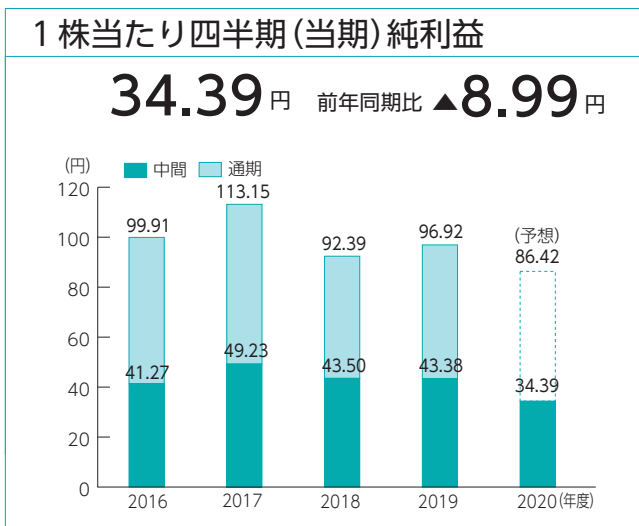
## 第2四半期業績のポイント

- 売上高は新型コロナウイルス感染拡大による影響で、前年同期比8.9%減収
- 利益面では、不溶性硫黄の販売減少の影響が大きく、前年同期比で減益

※グラフ中の金額は、億円未満を切り捨てて記載しております。



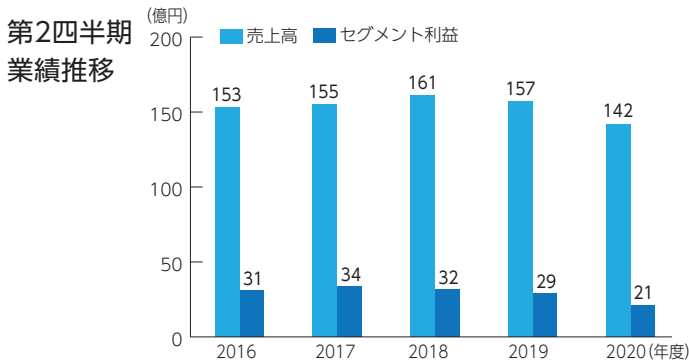
(注) 2018年度(第99期)より「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を適用しており、過年度については遡及適用後の値を記載しております。



## セグメント別事業概況

# 化学品事業

売上高 **142億97** 百万円  
セグメント利益 **21億31** 百万円



不溶性硫黄は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う世界規模での自動車やタイヤの生産調整の影響を受けて、国内、海外ともに低調に推移しました。塩素化イソシアヌル酸は、国内市場は新型コロナウイルスの感染拡大に伴う学校のプール授業中止などの影響によりプール薬剤の販売が低迷しましたが、家庭の衛生意識の高まりからくる消毒・殺菌需要の増加を受け、水回り設備(サニタリー)向け薬剤は好調に推移しました。ファインケミカルでは、タフエースを主力とする電子化学材料は自動車の生産調整の影響を受けて、車載基板用途等で前年を下回りました。イミダゾール類を中心とする機能材料は、自動車関連用途では市況悪化の影響を受けたものの、新規開発品が伸びました。

この結果、化学品事業の売上高は142億97百万円 前年同期比9.2%の減収、セグメント利益は21億31百万円 前年同期比27.9%の減益と、いずれも前年を下回りました。

### 主要製品



#### 無機化成品

- 不溶性硫黄 (ゴム加硫剤)
- 二硫化炭素 (化学繊維レーヨンの原料)
- 無水芒硝 (入浴剤の温浴効果促進剤、合成洗剤の洗浄助剤)



#### 有機化成品

- 塩素化イソシアヌル酸 (プール・浄化槽の殺菌・消毒剤、船舶バラスト水の塩素処理剤)



#### ファインケミカル

- 電子化学材料 (プリント配線板向け耐熱型水溶性防錆剤)
- 機能材料 (エポキシ樹脂の硬化剤、樹脂改質剤)

## 化学品事業 61.1%

売上高  
構成比

無機化成品 20.0%

有機化成品 24.5%

ファインケミカル 16.6%

エクステリア 34.2%

壁材

その他

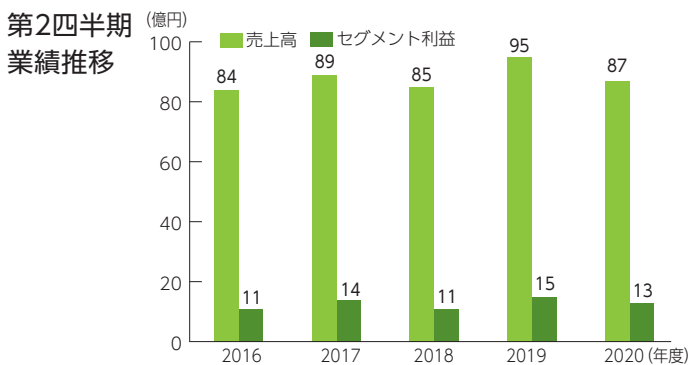
3.0%

1.7%

## 建材事業 37.2%

# 建材事業

売上高 **87億11** 百万円  
セグメント利益 **13億37** 百万円



新型コロナウイルス感染拡大に伴う内外経済の先行き不透明感が強く、投資を先送りとする傾向が強まるなど様子見基調が続いており、住宅着工や設備投資が弱含む中で、エクステリア、壁材ともに低調に推移しました。

この結果、建材事業の売上高は87億11百万円 前年同期比9.2%の減収、セグメント利益は13億37百万円 前年同期比12.4%の減益と、いずれも前年を下回りました。

### 主要製品



#### エクステリア

- 住宅エクステリア (門扉、フェンス、カーポート、アコーディオン門扉、テラス、アルミシステム塀)



#### 景観エクステリア

- 景観エクステリア (大型門扉、大型フェンス、通路用シェルター、自転車置場、ゴミ集積庫、屋上緑化等)



#### 壁材

- 内装材、外装材、舗装材



# JULUX 50年のあゆみ

おかげさまで、ジュラックス事業は50周年を迎えました。  
1970年9月、聚楽壁を独自の製法で再現した内装材「ジュラックス」の生産を開始、以来、伝統と化学を融合させた独自の技術により国内トップメーカーへと成長いたしました。  
当社は、日本の伝統文化である塗り壁を未来に受け継いでいくという使命感を持ち、これからも事業活動に邁進してまいります。

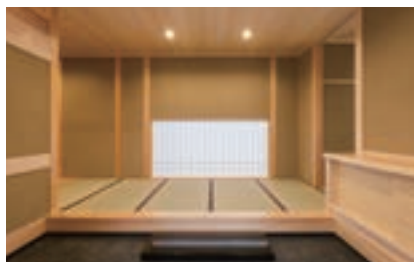


## 化学メーカーから、壁材「ジュラックス」が誕生

1947年に化学メーカーとして創業した当社が建材商品の開発から販売までを手がけているとは、一見、異業種を取り扱っているようですが、その原点はやはり「化学」でした。

当社は、1961年より合成洗剤の添加剤としてCMC(カルボキシ・メチル・セルロース)を生産していましたが、伸び悩む需要から新たな用途開発として着目したのが、当時住宅建築ブームに乗って売れ行きを伸ばしていた繊維壁の糊料としての活用でした。1968年から繊維壁メーカーへの納入を開始。こうした中、「本物の壁をつくりたい。」という創業社長の

強い信念のもと、本物の壁の開発に乗り出しました。目指したのは、戦前から最高級壁とされていた「聚楽壁」の工業化。聚楽壁には、材料の調合だけで数日を必要とし、施工の難しさから後継の職人が育たないという課題がありました。これを独自の技術で、より安く簡便に施工を可能にできないかと考え、「造粒技術」を開発し1970年に「ジュラックス」の名で販売を開始しました。聚楽壁と変わらぬ仕上がりの質感ながら、下準備が不要で施工も簡単なジュラックスは、職人の経験に頼っていた左官業界にとって画期的な商品となりました。



### ジュラックスとは

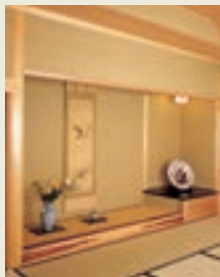
珪藻土や砂などを主原料とし、鍍塗り、吹付けなどによって仕上げる建築用仕上塗材。当社初の内装材に聚楽壁のデラックス版の意を込めて「ジュラックス」と命名。今日では、内装材、外装材、舗装材の当社壁材を総称するブランド名として、左官職人の皆様をはじめ、インテリア・建設業界に深く浸透、定着しています。



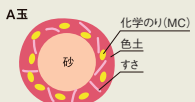
## エポックメイキングとなった技術・商品(抜粋)

### 1970年 造粒技術

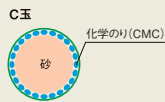
後発ながら壁材のトップメーカーへと躍進した商品力のベースが「造粒技術」。さまざまな材料をただ混ぜるのではなく、骨材一粒ひと粒に色土やスサを糊でコーティングし、顆粒状に造り上げるもので、所定量の水を入れて混ぜるだけで美しい梨地肌の壁面を鍍ムラなく仕上げられるという画期的な発明でした。この技術によって、初めて聚楽壁を工業生産することが可能になりました。現在も、「ジュラックスA」は造粒技術を用いて製造しており、先達が遺した技術は脈々と受け継がれています。



ジュラックスA



砂のまわりに色土とすさ、MCをまぶして固めた顆粒状。

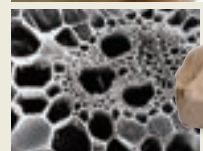
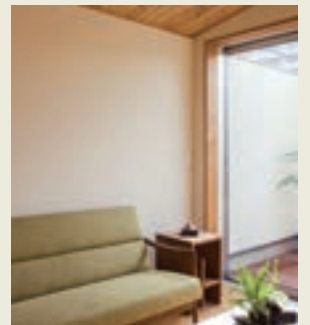


砂のまわりにCMCを配して固めた顆粒状。

A玉とC玉を84:16で配合することで聚楽壁につきものと言われた「ままご」と呼ばれるグマの問題を解決した。

### 1997年 けいそう壁

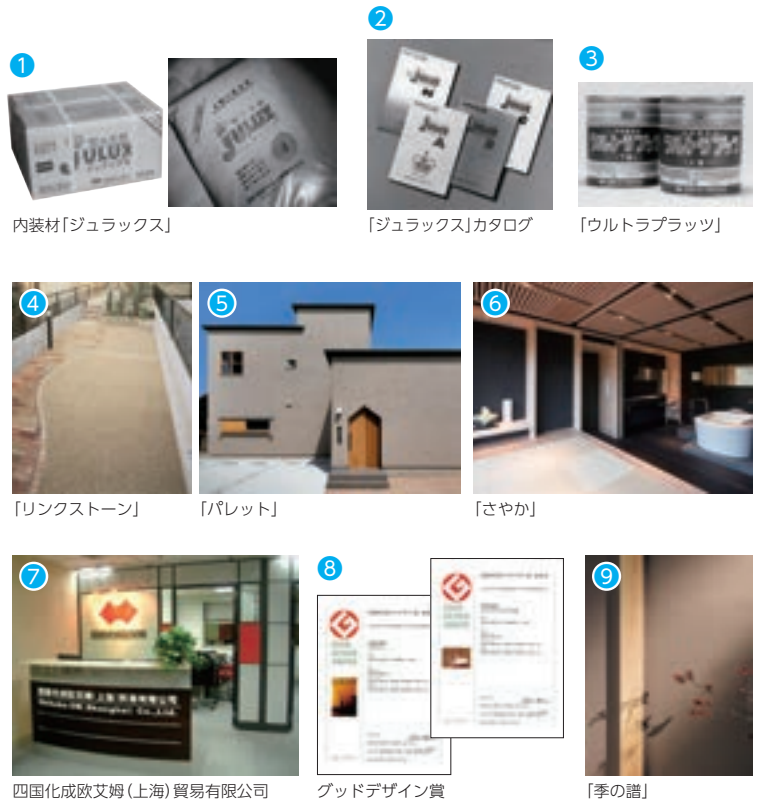
1990年代、住宅の高気密化・高断熱化などが進み、建築材料や家具などから放出される化学物質による室内空気汚染や、健康への影響が注目されるようになりました。健康志向の時流の中で生まれたのが、仕上がりが美しく優れた機能を持つ「けいそう壁」。植物性プランクトンの一種である珪藻から形成された多孔質な土は調湿性、断熱効果、吸音性、遮音性、耐火性に優れた高機能素材。人にやさしい健康素材としてお役に立っています。



けいそう土の顕微鏡写真

## 沿革(抜粋)

- 1970 ○ 内装材「ジュラックス」の生産を開始 ①  
建材事業に進出
- 1972 ○ 「ジュラックス」A・B・C・Sにシリーズ化 ②
- 1976 ○ 外装材に参入  
外装鍍塗材「ウルトラプラッツ」発売 ③
- 1977 ○ 壁材商品がJIS認定を取得
- 1994 ○ 舗装材に参入  
「リンクストーン」発売 ④
- 1995 ○ ゴムチップの舗装材「チップロード」発売
- 1997 ○ 「けいそう壁」発売
- 2001 ○ ブロック外装材「美ブロ」発売
- 2002 ○ 外装材「パレット」発売 ⑤
- 2003 ○ 液体顔料「SKセレクトカラー」による  
「シコクのカラーシステム」を確立  
○ 炭壁「さやか」「さやかシルキー」発売 ⑥
- 2006 ○ 中国・上海に壁材販売のための合併会社  
「四国化成欧艾姆(上海)貿易有限公司」  
(現:四国化成(上海)貿易有限公司)を設立 ⑦
- 2007 ○ CCM(コンピューター・カラー・マッチングシステム)導入  
○ 「美ブロ」が四国地方発明表彰発明奨励賞受賞
- 2008 ○ 「けいそうジュラックス土壁」「メタルファス」が  
グッドデザイン賞を受賞 ⑧
- 2012 ○ 「SKセレクトカラーシステム」が  
四国地方発明表彰発明奨励賞受賞
- 2017 ○ 磨き壁「ルミデコール」発売
- 2019 ○ 「季の譜(狹土秀平氏監修)」発売 ⑨
- 2020 ○ JULUX50周年



**「全国左官技能競技大会」をサポート**

2015年より、全国から選抜された左官職人の皆様が技能を競う「全国左官技能競技大会」をサポート。競技で使用する左官材料の提供や、上位入賞者の四国化成(上海)貿易有限公司の代理店様での研修・中国視察など、国内外に向けて左官技能の普及に努めています。

### 2001年 ブロック外装材「美ブロ」

コンクリートブロック塀に一度仕上げで上塗りできる画期的な外装材「美ブロ」の開発は、材料と工法への挑戦でした。塗布試験を繰り返し、大きな課題であったブロック目地の凹凸処理は炭素繊維の素材特性を生かした目地処理材の開発で解決し、下地モルタル塗りを行う場合は完成まで7日以上かかっていた工期を、たった1日に短縮しました。「美ブロ」の誕生はエクステリアと壁材の融合とともに、リフォーム市場を開拓するための大きな一歩となりました。



### 2003年 SKセレクトカラー

以前は製品ごとに4~20色程度の色数で構成されていましたが、施主様が部屋に合わせて色を選ぶ時代となり、圧倒的な商品点数で選択の自由自体が魅力と映るビニルクロスに伍するためにも、さらなる多色展開が必要でした。そこで、内装材・外装材・舗装材の全てに共通する液体顔料システムを採用し、「シコクのカラーシステム」を確立。色の選択肢が格段に広がりました。現在では約30製品に展開、標準色75色を備えています。



# 企業情報 (2020年9月30日現在)

## ◆ 会社概要

会社設立	1947年10月10日
本社所在地	香川県丸亀市土器町東八丁目537番地1
上場証券取引所	東京証券取引所 第一部
資本金	68億67百万円
グループ従業員数	1,217名

## ◆ 役員

代表取締役社長 兼 C.E.O.	田中直人
取締役 専務執行役員	吉岡隆
取締役 常務執行役員	松原純
取締役 常務執行役員	渡邊充範
取締役 執行役員	濱崎誠
取締役 執行役員	眞鍋宣訓
取締役 執行役員	遠所裕
取締役 (社外取締役)	渋谷博
取締役 (社外取締役)	寺田俊文
取締役 (社外取締役)	原田秀逸
常勤監査役	古川和彦
常勤監査役	田邊賢次
監査役 (社外監査役)	西原孝治
監査役 (社外監査役)	籠池信宏
執行役員	岸孝昭
執行役員	井出浩孝
執行役員	平尾浩彦
執行役員	片山和彦

## ◆ 株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会 3月31日  
期末配当 3月31日  
中間配当 9月30日  
このほか必要ある場合は、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。
- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
- 株主名簿管理人事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
- 郵便物送付先および照会先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
フリーダイヤル 0120-782-031 (受付時間 9:00~17:00 土・日・祝日等を除く)
- 公告方法 当社のホームページに電子公告として掲載いたします。  
<https://www.shikoku.co.jp>  
但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

## ◆ 株主優待制度について

期末現在における1,000株以上保有の株主様を対象に、地域の特産品(3,000円相当)を贈呈いたします。  
2020年6月には、地元香川の特産品である讃岐うどんをお届けいたしました。

## ◆ 株式の状況

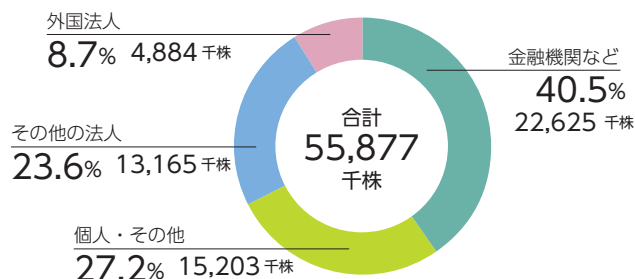
発行可能株式総数	235,850,000株
発行済株式総数	55,877,263株
株主数	4,128名

## ◆ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日清紡ホールディングス株式会社	5,580	10.02
シコク共栄会	4,401	7.90
日本生命保険相互会社	3,295	5.92
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・株式会社百十四銀行口)	2,640	4.74
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,621	4.71
株式会社香川銀行	2,500	4.49
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,433	4.37
株式会社伊予銀行	1,500	2.69
株式会社中国銀行	1,500	2.69
三菱商事株式会社	1,090	1.96

(注) ● 持株比率は自己株式を控除して計算しております。  
● 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託口・株式会社百十四銀行口)の持株数には、株式会社百十四銀行が自己名義で保有している300千株を含めて記載しております。

## ◆ 所有者別株式分布状況



＜株式に関する各種手続き＞  
【住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について】  
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。  
【未払配当金のお支払について】  
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

※当社は2020年12月4日より、株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関をみずほ信託銀行株式会社から三井住友信託銀行株式会社に変更いたします。